

平成 26 年度 第 2 回常任委員会議事録

- 1 期 日：平成 27 年 2 月 6 日（金）
- 2 会 場；岡山県岡山市・ピュアリティーまきび
- 3 出席者；釜井、池田、根岸、佐藤、中村、安藤、大槻、豊田、多田、村田、松本、市ヶ谷、森、伊勢、恒松、平、福西(奈良)、本間(山口)

4 議事

1. 挨拶；全国高体連 F 部長（釜井）

2. 大会運営について

①第 39 回全国高等学校選抜大会（奈良大会）

進捗状況について

1. 実施要項について説明あり
 - ・参加申込みの遅れあり。資格審査で様々なミスがあったことが報告された。部長より厳重注意をお願いしたい。
 - ・プログラムの有償配付(販売)を行う。そのため、参加チームのチーム写真送付を依頼している。
2. 用具判定基準について説明あり
3. 競技について説明あり
 - ・用具預り証、不合格証については、2009 年奈良インターハイで使用したものを利用する。
 - ・マスク・剣用合格シールは新たに作成した。
4. 式典について説明あり
 - ・未定の部分はあるが、大会までには確定する。
5. 競技日程について説明あり
 - ・秋田大会と同様の日程になっている。諸会議日程は、全国委員会が入るため変更になっている。
6. 試合番号一覧、組合せ表試合番号について説明あり
7. 競技会場について説明あり
 - ・10ピストともハイブリットを使用する。当初は、板ピストを使う予定だったが、会場スペースの都合で使用を止めた。
 - ・2階観覧席の下段は選手、上段は一般観客席として分けている。選手が上段を利用しても構わないが、荷物の持ち込みは禁止する。
8. その他について説明あり
 - ・大会役員、競技役員はほぼ決まった。審判員は、社会人が多くなる予定。ピスト主任は、奈良インターハイのリハーサルを兼ねて卓球専門部に応援を依頼している。

②平成 27 年度全国高等学校総合体育大会（奈良大会）

進捗状況について

1. 実施要項について説明あり
 - ・開会式は、桜井市民会館で行う。
 - ・競技開始は、9:00 に戻る。
 - ・申込みは、HP からダウンロードする形式で行う。申込み締め切りは 6 月 25 日(木)となる。
 - ・参加料が値上げになる。学校対抗は 40,000 円、個人対抗が 4,000 円。
 - ・配宿は、JTB が幹事になり取りまとめる。
 - ・プログラム編成会議は、7 月 2 日(木)・3 日(金)の 2 日間の予定。

2. 用具判定基準について

- ・競技委員会の決定事項により、フルーレマスクのレオンポール製は、第2バンドの取り付けができないものは使用できなくなる。そのため、マスク基準・図解に変更点を加える。

3. 競技会場について説明あり

- ・10ピストを敷く予定。観覧席は仮設スタンドを設置し、500席ほど増やす予定。
- ・競技会場の空調は、外付けになる。
- ・用具検査は、2階柔道場を使う。

4. 諸会議日程、練習会場、周辺図について説明あり

5. その他

- ・シャトルバスの運行を予定している。
- ・競技会場が変更になり、会場周辺に宿舎が確保できない。そのため広域配宿になると思われる。一番遠い宿舎で会場まで1時間ほどを考えている。
- ・広域配宿になる関係で、宿舎に朝食時間を早めてもらえるように依頼しているが、場合によっては競技開始時間を30分ほど遅くすることも検討している。

③第40回全国高等学校選抜大会（山口・岩国大会）

1. 実行委員会会長・橋本 F 協会会長挨拶
2. 進捗状況について説明あり

④プログラム編成会議

- ・滞りなく終了する。

3. 報告事項

①平成26年度行事報告（安藤）

- ・26年度行事について報告あり。

②競技委員会報告（伊勢）

- ・第2回競技委員会について報告あり。

③強化普及委員会報告（恒松）

- ・26年度指導者講習会について報告あり。

③平成26年度全国高体連報告 後期（釜井）

- ・学校対抗の大会参加料が毎年5,000円ずつ値上げされ、最終的に50,000円になる予定。
- ・テニス専門部の資産問題について説明あり。
- ・32年度問題(2020年)のインターハイ開催について検討している。

④平成26年度日本フェンシング協会報告 後期（釜井）

- ・現在は、理事会が決定機関として機能している。
- ・不正会計の処理について、内閣府の指導が入っている。
- ・各理事に、高円宮牌のチケット販売ノルマが課されている。
- ・事務局運営を円滑に行うための資金を得るために、個人登録費が値上げされる見通し。
- ・フィードバック会議を開き、様々な問題を検討している。
- ・JOC大会への外国人選手の参加について次大会より出場制限がかかる。
- ・代表選考に係る大会への外国人選手の参加は無くした方がよいのではないか。

→本大会への参加は認めないが、その下の大会参加は認める方向で話をしている。上記の意見は理事会へ伝える。

4. 協議事項

①平成27年度行事予定案について（安藤）…承認

- ・27年度行事予定について説明あり

②平成27年度予算案（根岸）…承認

- ・27年度予算について説明あり

- ・事業費運営補助費の増加は、選抜大会への補助金の出し方を見直したため。選抜補助金100

万円を専門部派遣役員旅費全額負担に切り替えた。

- ・行事費の強化合宿費の増加は、海外研修視察調整のため。
- ・管理費の雑支出が減になっているのは、昨年度に検査ボード、無線機を購入した分の減。
- ・加盟登録費の値上げについては、次年度検討したい。

③強化普及員会提案事項（恒松）…承認

- ・フランス指導者講習会について説明あり。
- ・参加資格については、柔軟に対応する。
- ・全国高体連へ後援を依頼している。

④競技委員会提案事項（伊勢）…継続審議

- ・選抜大会へのエペ・サーブル団体戦の導入について経緯を説明
- ・競技委員会を経て新たな案が提示された。ブロック予選火の方向性や、地方支援策の提示があった。また出場枠については、出場枠をブロックにローテーションで割り振ることで不平等を是正するように見直した。最終的には、フルーレ 24 チーム、エペ・サーブル各 16 チームを出すように考えている。
- ・タイムテーブル案について説明あり。

(意見)

- ・全国高体連として何を優先して行くのかという方向性を決めて、話し合うべきではないか。
- ・三種目を平等に扱い団体戦導入を目指すべきだと思う。
- ・エペ、サーブル各 24 チームにして、新たな高体連ルールを作って、2 日間の競技日程内でこなす方法もある。
- ・競技日程を増やすことはできないのか。
- 大会日数に規定はないが、予算・役員の関係上増やすことは厳しいと思う。
- ・選抜大会をエペ、サーブルの大会にしてはどうか。
- ・フルーレ 24、エペ、サーブル各 16 を固定せず、ローテーションで回すのも一案。
- ・導入するとフリー抽選になるので、何かポイント制等を導入しシードできるように考えるべきではないか。
- ・国体のプレ大会にしてはどうか。→国体とは競技方法が違うので難しい。
- ・競技人口が減っている地方では、チームを編成できないこともあるが。
- ブロックから代表を出すという考え方で当面出場枠を満たすことを考えている。1 県から 2 校の代表を出すこともあり得る。
- ・専門部で決めてくれれば、それに従うという意見もあるが。
- 今回はアンケート等を導入することは、考えていない。
- ・基本的に三種目団体戦を行うスタンスで提案すべき。
- ・エペ、ブル団体戦導入についてブロックで聞いてみたが、積極的に導入したいという意見は無かった。出場枠については、デリケートな問題がある。
- ・学校の事情によっては、種目にエントリーすることを諦めてしまう学校があるのではないか。
- ・結局、選手が多い学校にしかメリットがあるものになってしまうのではないか。
- ・部活動を運営する観点からも考えて欲しい。ほとんどの選手が高校からスタートする状況も考慮すべき問題。
- 指導者育成対策も考えている。

※今回の様々な意見をもとに、導入するのもしないのか、を含めて 6 月の競技委員会で検討し、8 月の常任委員会、全国委員会へ提案したい。

⑤その他

1. 2020 年インターハイについての状況説明（群馬県・森先生）

- ・東京オリンピックの関係で宿舍や会場が確保できない。
- ・全国高体連では、開催ローテーションの変更を前後年度開催ブロックに打診したが否決された。そのため北関東ブロックでの開催実施を考えている。
- ・北関東 4 県は、開催は無理と考えている。

- ・北関東で開催ができない場合は、全国専門部で代替案を検討することになると思われる。
2. 平成 27・28 年度役員改選について…承認
- ・釜井部長、池田・根岸副部長、部長指名常任委員が退席した後、ブロック選出の常任委員で原案を検討。
 - ・部長に釜井先生、副部長に池田先生・根岸先生、監事に栗原先生・坂上先生を推薦することを決定する。
- 釜井先生、池田先生、根岸先生の 3 名共に推薦の受け入れを了承。
- ・部長指名の常任委員については、釜井先生の意向で、現在の部長指名常任委員の留任をお願いしたいと依頼があった。
 - ・常任委員の所属専門委員会については、釜井部長に一任する。
- ※正式な就任は 3 月の全国委員会で決定され、全国高体連理事会の承認を受けた後となります。
3. 登録状況について
- ・女子選手の登録数がどんどん減少している。都道府県で女子選手を増やす対策を講じる必要があると思われる。
4. 選抜大会 3 名エントリー出場校について
- ・3 名エントリーの学校が複数ある。2 名になり棄権となった場合のことをあらかじめ確認しておく必要がある。
- 試合途中の棄権は、最初から出場しなかったものと見なす。プールから 2 校以上の棄権が出た場合は、8 プールの 4 番を移動させる。4 番が移動できない場合は 3 番、ダメなら 7 プール 4 番を移動させるインターハイ方式で対応する。